

「平和」について考えた夏

高松市立多肥小学校 六年 小西 里和

夏休みに入り、コロナ感染者は、恐ろしい勢いで増えていき、広島への家族旅行はなくなった。残念だったが、高校生の兄は六月に北海道へ修学旅行に、私は七月四日に学校の平和学習で広島県に行くことができた。

私達六年生は、『はだしのゲン』を見て、色々戦争について調べた後、広島へバスで向かった。準備している時から気が重かった。写真や被ばく者の方が語る「地ごと」。真っ黒こげの死体。体がばんばんに、はれていたり、臓器がはみだしたり、やけどの痛みやケロイド……。本当は話したくないけれど、子供達に伝えておかねば、という思いがひしひしと伝わってきた。こわかったけれど真面目に聞いた。記念写真でピースサインなどしない様にした。そうしてはいけない気がした。帰ってからもう怖い夢を見て、夜、目が覚めた時はドキドキした。ウクライナのニュースを見るとむねがキュウツとして「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」という石碑の言葉が、何度も頭にうかんでくる。じっとしていられない気持ちになり、家族に夏休みは平和記念公園でおいのりしようと提案した。

八月に入る直前、夏休みの家族旅行の中止が決まった。父と母は「二人とも学校の旅行に行けてよかった。」と言ったが、少し不公平な気がした。写真やおかしをいっぱい持って帰ってきた兄は、いつもよりたくさんしゃべってニコニコと機嫌がよかった。私達の平和学習とはちがう気がした。(お兄ちゃんは中学の修学旅行に行けなかったもんな。)と思い直して、兄の修学旅行の写真を見ていた。きれいな風景の写真の中に、アンパンマンのおもちやだらの写真が一枚。不思議に思っていたら兄が横から「里和、びっくりしたんだけどな。」と話しかけてきた。旅先でアンパンマンショップを見つけ、なつかしくなって中に入ったところアンパンマンの第一作を知る事になったという。元々のアンパンマンは、戦地で、うえた子供達にアンパンをくばっていた太つちよのおじさんと兄は言った。しかも、アンパンを届けていたある日、許可なく国境をこえて飛んでいたため撃ち落とされた、と言うのだ。(絶対うそだ。私をだまそうとしている。)と思い、図書館でアンパンマンの本を探すことにした。

第一作の本は無かったが、作者の本は、たくさんあって、兄の話は本当だと分かった。やなせたかし先生は、自分の体験から「戦争には真の正義などない。」「絶対的な正義とはひもじい人を助ける事。」「食べる事は子供にとって一番大切な事。」とも言っていた。本を読んで祖母の口ぐせを思い出した。祖母は「おいしいものを食べる事が一番の幸せ。」と言って、ぜいたくなアイスクリームやケーキを用意して、高価な肉でごちそうを作ってくれる。母は、その度「少しやせんといからゆるわくしないで。」と祖母に強く言う。私が四年生の夏休み前に、保健室でカロリーについて、母と習ってからは特に厳しくなった。おやつ

は二百キロカロリーまで。ジュースはダメ。最初に野菜から食べる。そうやってがん張って肥満度を10%以上減らしたが、未だに「軽度肥満」。それでも祖母は、

「理和は、ポチャツとしてた方が可愛い。」

と言う。うそを言ってる様には見えない。(あまり気にしなくてもいいのかな。)と思う時もあるし、(私は、気にしているのに。)と少し腹が立つ時もある。

祖母の子供の頃も身体測定はあったが、保健室の先生に「やせなさい。」と言われる子はいなかったそうだ。『データで見る太平洋戦争』という本に祖母の世代の十四才の平均身長がのっていた(一九四八年度)。男子一四六cm、女子は一四五・六cm。私より小さい。もっと驚いたのは、戦前の十四才男子一五二・一cm、女子は一四八・七cm(一九三九年度)。戦争をまたいで、男子は六cmも縮んでしまった。ごはんが食べられなかったのだ! 「うえる」というのは、昼ごはんが遅くなってお腹が空いた、というレベルでは無いのだと思う。だが、背が縮む程食べ物が無いという状態は想像もできない。

この夏休みは戦争についてたくさん考えた。戦争を語りつぐ人がいなくなったら困る事になるというのなら、私が戦争を研究して、色々な資料を集めてみようかなと思ったりした。痛そうな、苦しそうな、悲しい写真や物語を見聞きしたら、私はむねがとても苦しくなって戦争がこわくなったから。でも、やなせ先生は、死にそうなくらいいうえて苦しい人を描くのではなく、自分で弱るのが分かっている、お腹を空かせている人を見たら、自分の顔(あんぱん)をちぎってあげるヒーローを描き続けてきた。

お腹が空きすぎても、食べきれない程の食べ物があっても、心と体は「平和」にならないようだ。現代では肥えた子供が生活習慣病になりやすいし、ゲームばかりやって心の病気になる子もいる。

「平和」は、どうやったら学べるのだろうか? 「平和」から連想する言葉―幸せ、家族、友達、温もり、仲良し、きずな、自由、平等。広島平和記念資料館には「平和」なものも一つも無かった。やなせ先生は、人間が一番うれしい事は、「人を喜ばせる事」で「喜ばせごっこ」ができる事が「幸せ」だと言っている。

あんは日本の食べ物。パンはポルトガルから来た外国の食べ物。あんパンは日本と外国が協力して、できあがったおいしい食べ物だと私は思う。自分が持っている物を探し回ったり、欲しがったりするのでは無くて、自分が持っている物やアイデアをみんなで差し出しあって、おいしいもの・楽しいものを作ってお互いが喜び合う。そんな事ができる様な大人になりたい。みんなで「喜ばせごっこ」ができる世の中を作っていきたい。